中学３年生の実践

１．題材　立つ鳥想いを残すプロジェクト ～最高の卒業をむかえるために～

２．題材について

　クラスの様子や６月に行ったクラスアンケートの結果をふまえて、「お互いの考えを表現し合い、みんなで何かを作り上げる良さを経験させたい」と考えた。年間を通してみんなで何かを作り上げる経験を積ませながら、最終的には、「どのような卒業式にしたいか」を生徒たちがお互いの考えを表現しながら作り上げてほしいと思い題材を設定した。

クラスの生徒について
周りの様子をうかがい、自分の考えや思いを表現することに課題がある。

アンケート結果（１回目　６月）
「このクラスが好きだ」　　８２.４％
「クラスに貢献していると思う」
６１.７％
「友達から認められている一面があると思う」
６７.７％

アンケート結果から…
・クラスの事は好きだが、クラスに貢献したり、誰かに認められているという自己肯定感に関わる項目に関しては低い結果となった。

３．指導について（指導のねらい・手立て）

手立てのポイント①

【目標を共有しPDCA を回す手立て】

最高の卒業とは何かを考える

・ワークシートを使い、どのような気持ちで卒業をむかえたいか考えを整理する。
（内容）
「どのような卒業式にしたいか」「どのような姿になっていたいか」「誰に何を伝えたいか」
・回答をもとに卒業までに自分たちにどのような行動ができるかを考えさせる。
（ワークシートの回答）
「楽しい思い出を胸に卒業をむかえたい」「後輩、家族、先生、友人に感謝を伝えたい」
「新入生が入学したときに安心できるように何かを残してあげたい」などの回答が得られた。

手立てのポイント②

【合意形成をスムーズにするための手立て】

これまでの活動を生かす

これまでみんなで作り上げてきた活動の写真や動画を見せ振り返ることで、自分たちで活動を作り上げるときの手がかりとすることができる。（２年次の遠足が中止となり、その代わり行った学年レクの様子など）

話し合いの場面・時間の確保

　これからの生徒の活動に対し、見通しを持ち、話し合いや活動する場の確保をしておくことで生徒の活動が円滑に進み、主体的に活動することができる。

手立てのポイント③

【自己肯定感を高め、振り替えるための手立て】

定期的に行うクラスアンケートを生徒と共有する

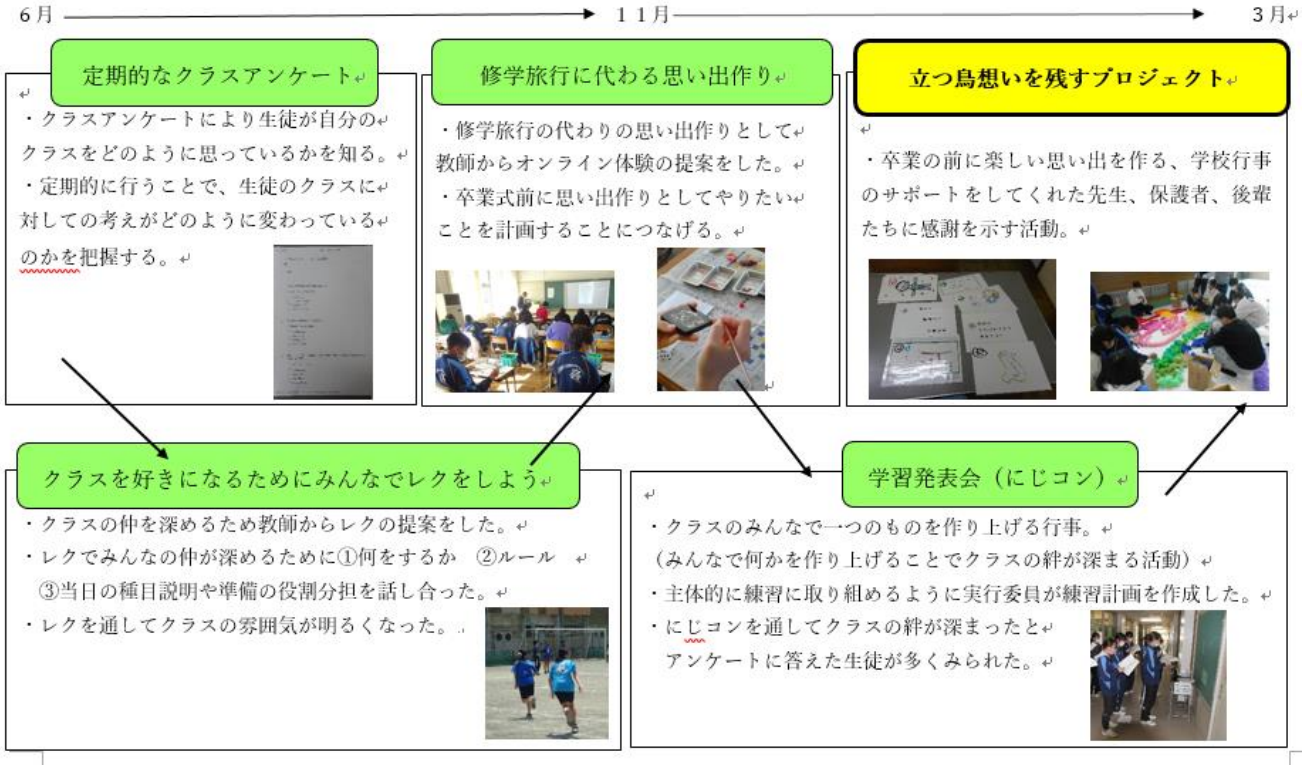
　活動の振り返りと定期的に行うクラスアンケートの結果を生徒に伝えることで、行ってきた活動によりクラスに対する考えが良い方向へ変わっていることを実感できる。

　これらの手立てを行いながら実践を行った。

４．第３学年の特別活動の目標

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
他者と協働する集団活動を行う上で必要となることについて理解している。 話し合い活動の進め方、合意形成の図り方などの技能を身につけている。	問題を発見し、解決方法を自分の考えや意見を表現しながら話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりしている。	人間関係をよりよく構築するために、自主的に自己の役割や責任を果たし、協働しようとしている。

５．年間で関連を図っていく題材



６．実践の実際

６月　第１回目のクラスアンケート実施

アンケート結果（１回目　６月）
「このクラスが好きだ」　　８２.４％
「クラスに貢献していると思う」
６１.７％
「友達から認められている一面があると思う」
６７.７％

アンケート結果から…
・クラスの事は好きだが、クラスに貢献したり、誰かに認められているという自己肯定感に関わる項目に関しては低い結果となった。

７月　クラスを好きになるためにみんなでレクをしよう

・クラスの仲を深めるためのレクの実施
→みんなで何かを行う楽しさを体験（７月）
（レクの手立て）
※「みんなが楽しめるために」を考えて種目やルールを考えることを約束事として決めた。
※種目を決める班での話し合いでは Chromebook の Jamboard を使用し意見を出しやすいように行うことで自分の意見を発表するのが苦手な生徒も自分の意見を表現できていた。

１１月　修学旅行に代わる思い出作り

・修学旅行が中止となり、それに代わる思い出作りとして教師からリモート体験の提案をした。
　→卒業式前に思い出作りとしてやりたいことを計画することにつなげる。
　扇子作りと手鏡作りの希望をとり、２グループに分かれて講師とリモートでやり取りをしながら体験活動を行った。

１２月　学習発表会（にじコン）

・にじコン（学校行事、合唱）の活用
→みんなで何かを作り上げる達成感、絆が深まることを体験（１２月）
にじコンの手立て
※教師は声掛けをなるべく少なくし、見守るというスタンスと実行委員が練習計画の作成することで実行委員やパートリーダーを中心に主体的に練習が行えていた。

アンケート結果（２回目　１２月）
「このクラスが好きだ」
８２.４％　→　９７.１％
「クラスに貢献していると思う」
６１.７％　→　８０％
「友達から認められている一面があると思う」
６７.７％　→　８５.７％

２月　立つ鳥想いを残すプロジェクト

ワークシートを使い、どのような気持ちで卒業をむかえたいか考えを整理する。（１１月）
・回答をもとに卒業までに自分たちにどのような行動ができるかを考えさせた。
また、結果をもとに、どのような活動をしていきたいか、クラスごとに話し合いも行った。
その結果、「自分たちの楽しい思い出作り」と「先生、保護者、後輩に感謝を伝える」活動をすることに決まった。
・「自分たちの楽しい思い出作り」→**たちりんピック**
（球技に限らず自分たちでやりたい種目を考え行う）
思い出かるた
（学校生活での思い出でかるたを作成する）
・「先生、保護者、後輩に感謝を伝える」→**夢・ありがとう**
（ありがとうの文字を使い「夢」という漢字の形にして制作物を作り卒業式の式場に掲示する）

アンケート結果（３回目　２月）
「このクラスが好きだ」
８２.４％　→　９７.１％　→　９８.３％
「クラスに貢献していると思う」
６１.７％　→　８０％　→　８０.５％
「友達から認められている一面があると思う」
６７.７％　→　８５.７％　→　８６.４％

７．研究を終えて

　自分たちでやりたいことを考え、作り上げていく活動を行った結果、学校行事でも生徒同士で声をかけ合いながら活動する姿多く見られた。昨年まで人前で何かをするのが苦手と話していた生徒が実行委員等に立候補し、中心で活躍する様子が見られた。また、アンケート結果においても６月に低い結果となっていた自己肯定感に関する項目に対しても良い変化が見られた。